



TITLE:

外国人研究員 外国人共同研究者 研修員 日本学術振興会特別研究員 研究生 所内談話会 大学院コロキウム 公開講座 市民公開日(I 研究所の概要)

AUTHOR(S):

CITATION:

外国人研究員 外国人共同研究者 研修員 日本学術振興会特別研究員 研究生 所内談話会 大学院コロキウム 公開講座 市民公開日(I 研究所の概要). 霊長類研究所年報 1994, 24: 43-45

ISSUE DATE:

1994-11-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/164610>

RIGHT:

と保存.

- 28) 田中 香 (1993): 野生ニホンザルの採食場所選択とその発達. 第40回日本生態学会大会. 講演要旨集, P. 133.
- 29) 田中 香 (1993): 野生ニホンザルの採食行動の群間比較. 日本動物行動学会第12回大会. 発表要旨集, P. 35.
- 30) 田中正之(1993): チンパンジーにおける分類行動. 第9回日本霊長類学会大会. 霊長類研究 9: p. 270.
- 31) 田中正之(1993): チンパンジーによる「分類」とその般化. 日本動物心理学会第53回大会. 予稿集 p10.
- 32) 田中正之(1993): チンパンジーによる機能的カテゴリの形成とその般化. 日本心理学会第57回大会. 発表論文集 p545.
- 33) 田中正之・外岡利佳子(1994): ヒトの子どもとチンパンジーにおける自発的分類の比較. 日本発達心理学会第5回大会. 発表論文集 p229.
- 34) 植木浩一郎(1993): 同期的振動現象を記述する非線形微分方程式. 第17回日本神経科学大会抄録集
- 35) 山越 言 (1993): 「文化」を運ぶメス・ギニア, コートジボアールの野生チンパンジー調査報告. 第30回日本アフリカ学会大会.
- 36) 山越 言・松沢哲郎 (1993): ボッソウのチンパンジーによる石を使ったコウラの実割り行動. 第9回日本霊長類学会大会. 霊長類研究 9(3), p 264.

外国人研究員

氏 名	受入教官	研究課題	招へい期間
Iver H. Iversen	松沢哲郎	チンパンジーにおける刺激等価性の研究	4. 6.24 ～ 5. 4.23

招へい外国人学者

氏 名	受入教官	研究課題	招へい期間
Iver H. Iversen	松沢哲郎	チンパンジーにおける刺激等価性の研究	5. 4.24 ～ 5. 8.18

外国人共同研究者

氏 名	受入教官	研究課題	招へい期間
Vera Walraven	松沢哲郎	チンパンジーにおける認知機能の研究	5. 6. 8 ～ 5. 6.28
Bambang Suryobroto	竹中 修	インドネシア国スラウェシ島マカカ属サルの子系統学	5. 6.18 ～ 5. 9.17
Vanessa Jane Hayes	杉山幸丸	霊長類, とくにニホンザルの行動・生態学的研究	6. 3.29 ～ 7. 3.28

研 修 員

氏 名	受入教官	研修題目	研修期間
芝原総子	大澤秀行	性行動発現メカニズムの種間比較	5. 4. 1 ～ 6. 3.31
竹中晃子	竹中 修	カニクイザルのα-グロビン遺伝子領域に見出された未知プロセスト遺伝子について	5. 4. 1 ～ 6. 3.31
小高 泰	三上章允	前頭葉における情報処理機構	5. 5. 1 ～ 6. 3.31
瀬戸口 美恵子	加納隆至	愛知県北西部に生息するニホンリスの個体数及び年齢構成の調査	5. 8. 1 ～ 6. 3.31

日本学術振興会特別研究員

氏 名	指導教官	研究課題	研修期間
日上耕司	松沢哲郎	霊長類における利他的行動の実験的分析	4. 4. 1 ～ 6. 3.31
上野吉一	小嶋祥三	フサオマキザルにおける嗅覚コミュニケーションの実験的分析	5. 4. 1 ～ 6. 2.28

研 究 生

氏 名	指導教官	研究項目	研究期間
駒井章治	林 基治	霊長類中枢神経系における神経	5. 4. 1
		活性物質の分布	～
		と個体発達	6. 3.31
柳原芳美	大澤秀行	動物の社会構造	5. 4. 1
		研究	～
			6. 3.31
Joseph Mark Soltis	杉山幸丸	ニホンザルを主とする霊長類の	5. 7. 1
		性選択と雄間競争	～
			6. 6.30
金 熙洙	竹中 修	霊長類DNAの構造解析	6. 2. 1
			～
			6. 3.31

所内談話会

- 第1回：1993年5月20日 PM4:00～5:00
90年代を代表する哺乳類化石の発見
瀬戸口烈司（進化系統研究部門・系統発生分野）
- 第2回：1993年6月3日 PM4:00～5:00
Toward understanding the evolution of the Orang-utan.
Dr. Jeffrey H. Schwartz (Dept. Anthropology, Univ. Pittsburgh)
- 第3回：1993年6月24日 PM4:00～5:00
染色体進化とは？
平井啓久（進化系統研究部門・集団遺伝分野）
- 第4回：1993年9月24日 PM4:00～5:00
分娩発生機転
清水慶子（分子生理研究部門・器官調節分野）
- 第5回：1993年11月19日 PM4:00～5:00
マダガスカル風景と原猿たち
浅岡一雄
（分子生理研究部門・遺伝子情報分野）
- 第6回：1993年12月16日 PM4:00～5:00
カニクイザルを訪ねて
川本 芳（進化系統研究部門・集団遺伝分野）
- 第7回：1994年1月20日 PM4:00～5:00
タイのマカクについて
— カニクイザルを中心に —
鈴木樹理（サル類保健飼育管理施設）
- 第8回：1994年2月17日 PM4:00～5:00

サル古骨三題

- 岩本光雄（進化系統研究部門・形態進化分野）
第9回：1994年3月24日 PM4:00～5:00
季節繁殖と甲状腺
野崎真澄（分子生理研究部門・器官調節分野）
（所内談話会係：友永雅己，平井啓久）

大学院コロキアム

- 第1回 平成5年7月7日（水）
「実験と飼育における動物福祉」
（参加者：約50名）

講演者と題目

- 下田耕治（慶應義塾大学実験動物センター）
「実験動物と動物実験—日本と欧米の比較」
山口千津子（日本動物福祉協会）
「欧米における動物福祉の実態」
浅野俊夫（愛知大学）
「霊長類研究所における86年ガイドライン策定の経緯」

- 討論：杉山幸丸，松林清明，相見満，中村克樹，
金沢 創
企画：鈴木樹理，友永雅己
内容：動物福祉や保護の問題は前年度にもコロキアムで取り上げられたが，今年度は動物福祉という点に焦点を絞った。下田は特に動物実験に関する法規制を中心に，また山口は米国ジョーンズ・ホプキンス大学における実験動物福祉の実態について見聞してきたことを報告した。さらに，1986年の霊長研ガイドライン策定時の中心人物の一人であった浅野は，当時の研究所をとりまく状況や策定の経緯，その後の変化についての話がなされた（参加：約50名）。

- 第2回 平成5年12月15日（水）
「類人猿研究が，人類進化の解明にいかに関与するのか？」

講演者と題目

- 古市剛史（明治学院大学）
「ボノボ（*Pan paniscus*）の性の研究からわかること」
松沢哲郎（行動神経研究部門）
「チンパンジーの研究は何の役に立つのか：心理学の立場から」
木村 賛（進化系統研究部門）
「ヒトの祖先型のモデルとしての類人猿」

討論：毛利俊雄，小川秀司，田中正之，
平井啓久

企画：田中香，松元健二

内容：本研究所は今年度より大部門制に移行し，
類人猿研究をさらに充実させることになった。
そこで，研究所設立の理念である人類進化の
解明に，類人猿研究の果たす役割を，真正面
から問題にした。

古市氏は，ボノボの性についての研究の概
略にふまえて，ヒトの進化について語る可能
性と，今後進めるべき研究について検討され
た。松沢は，山登りとのアナロジーにおいて，
大型類人猿研究のパラダイムの変遷について，
独自の解釈を試みた。木村は，類人猿をヒト
の祖先型のモデルとして研究することが重要
であると主張し，類人猿そのものの進化過程
の解明が進むことに対する期待を表明した。
視点の異なった3人の類人猿研究者の講演に
対して，討論者を中心に，さまざまな観点か
らの議論がなされた。

なお，本企画は，今年度ティーチング・ア
シスタントの2名が担当した（参加：約50名）。
（大澤秀行：93年度カリキュラム委員会）

公開講座（第9回）

タイトルは「霊長類の進化」である。平成5
年8月26日（木）・27日（金）の両日，霊長
類研究所会議室において開催した。

応募者は159名，抽選により80名（定員）
の受講者を決定した。参加者は71名だった。小・
中・高校教員，会社員，主婦，学生と幅広く，中
部，近畿，中国地方からの参加者が多かった。プ
ログラムと演者は下記のとおりである。

総合案内	平井啓久
二足歩行の起源	木村 賛
類人猿の社会進歩	山極寿一
脳の進化	澤口俊之
霊長類とDNA	竹中 修
形態・骨学実習	高井正成
心理学実習	松沢哲郎
野外行動観察実習	加納隆至
遺伝学実習	庄武孝義

夏期セミナー（第5回）

平成5年7月15日（木）・16日（金）の両

日，霊長類研究所会議室において開催した。応募
者は77名，抽選により50名（定員）の受講者
を決定した。参加者は北大から琉球大まで全国2
2大学（応募は29大学），所属学部は文17名，
理16名，農6名，その他で，合計46名だった。
各分野と施設の紹介があり，一日目の夜に懇親会
があった。

市民公開日（第4回）

平成5年10月24日（日）午後1時から3時
30分まで，霊長類研究所において開催した。本
年は，犬山市立図書館に「サル文庫」が開設され
た記念事業の1つとして，対象を犬山市民に広げ
て開催した（従来は，丸山，富岡，塔野地三地区
のみを対象としていた）。三地区長に案内状配布
を依頼したほか，犬山市の広報誌にも案内を掲載
した。募集期間が短かったこともあり，参加者は
46名だった。

プログラムは以下のとおりである。

13：15～13：30

所長代理挨拶：杉山幸丸教授

13：30～14：30

講演「ヒヒとエチオピア」 庄武孝義教授

14：30～15：30

所内見学，ビデオ上映等

（松沢哲郎：93年度広報委員会）

学位取得者と論文題目

京都大学博士（理学）

上野吉一（論文）

フサオマキザルにおける匂い知覚に関する実験
的分析

友永雅己（論文）

Visual search by chimpanzees (*Pan troglodytes*):
Some comparative perception and cognition
studies (チンパンジーにおける視覚探索
—その比較知覚・認知的研究—)

京都大学修士

白石陽子：マカカ属サル大脳皮質前頭連合野にお
ける特異発現遺伝子の探索

橋瀬和秀：チンパンジーにおける視聴覚統合

長谷川良平：作業記憶に基づくサッカーボール運動
に関するサル前頭連合野の神経機
構

山越 言：野生チンパンジーの道具使用行動